岡崎市社会資本整備総合交付金

「新世紀岡崎　衛る水のみち構築計画」事後評価　議事録

日　時：令和２年 11 月 19 日（木）ほか

場　所：オンライン会議にて開催

出席者：

（評価委員）

委員：豊橋技術科学大学教授　井上　隆信　氏

委員：名城大学教授　鈴木　温　氏

委員：名古屋市立大学准教授　三浦　哲司　氏

委員：日本政策投資銀行次長　加藤　秀行　氏

（事務局）

岡崎市総合政策部企画課係長　鈴木

岡崎市総合政策部企画課主事　増澤

岡崎市上下水道局上下水道部下水工事課係長　竹田

岡崎市上下水道局上下水道部下水工事課技師　久米

岡崎市上下水道局上下水道部下水工事課技術員　今井

（傍聴人）

なし

事務局	（「新世紀岡崎　衛る水のみち構築計画」の、指標、実績、指標達成状況、評価について説明。）
三浦委員	改築更新を平準化すると一部の管渠は耐用年数を超えることになるのか。
事務局	ストックマネジメント計画では点検調査やリスク評価を行いながら更新時期を定めるため、状態が良ければ法定耐用年数を超える管渠もある。
井上委員	更新した管渠の次回の更新時期はいつを想定しているのか。
事務局	現在行っている１回目の改築更新の完了に70～80年を要すため、２回目以降の更新計画はまだ考慮していない。
鈴木委員	都市浸水対策達成率の５年に１回程度発生する雨の整備では、近年激甚化する雨に対応できないのでは。
事務局	ハード対策だけで全ての雨に対応することは出来ない。市民や業者と協力し合い、ハード対策とソフト対策を組み合わせた「総合雨水対策計画」に基づき、財産、命を守る対策を引続き行っていく。
鈴木委員	整備計画書に費用便益比が記載されていない事業があるのはなぜか。
事務局	全体事業費や活用制度によって算出対象事業が定められている。
鈴木委員	雨水貯留浸透施設設置支援数は計画値を下回っているが、今後はどのように対応するのか。
事務局	今までイベント時の制度紹介や岡崎市内の市街化区域全戸にチラシを配布する等の PR をしている。貯留浸透施設の設置は自助で対応できる浸水対策の一つであるため、その重要性や制度を今後も積極的に周知していきたい。
三浦委員	全国で水害への関心が高まっているタイミングや開発事業に合わせて、市民、民間事業者問わず雨水貯留浸透施設の PR を行えば、より効果的な啓発活動になると考える。また、市が行う下水道事業について理解いただくためにポンプ場等下水道施設の見学会を行うことによって、ハード・ソフト対策を更に周知できると考える。
井上委員	改築更新は地下水の汚染防止等、衛生面に対する未然防止も行えると考える。事後評価書の「事業効果の発現状況」に追加してはどうか。

事務局	衛生面も含めて機能確保と記載しているが、指摘のあった箇所を修正する。
加藤委員	事業ごとの計画値と実績値を比較し、目標の到達度を検証しているが、計画指標の内容が妥当だったか分かりにくい。例えば、岡崎市全体の予算に対する下水道事業費の割合や他自治体との比較等、ほかの指標でも検証すると妥当だったか、より分かりやすくなると考える。

【結果】

この事後評価案が妥当であることを判断する旨、委員一致で採決された。